



一般社団法人 奈良教育大学同窓会竹柏会会報

まほろば

第 37 号



目 次

○会長挨拶	2
○学長挨拶	3
○理事長挨拶・キャンパスだより	4
○令和5年度決算報告・監査報告	5
○令和5年度会務報告・令和6年度活動方針	6
○役員紹介・寄贈書の紹介	7
○同窓会だより	8
○研修部だより	9
○支会だより	10
○Report ナラノヤエザクラの増殖	11
○会員だより	11~13
○学生会員からのたより	14~16
○学生クラブ・サークルだより	15
○事務局だより・編集後記	16

『春の明日香村』

岡本 清人(S53)

春の明日香の主役は花です。春になると、桜や菜の花、彼岸花や名もなき道端の花々が、穏やかな明日香の野山に彩りを添えます。そんな明日香の小径に画架を立て、菜の花を描いてみました。

長い年月による多少の変化はあるにせよ、いにしへの万葉人も、きっと同じようにこの景色を見ていたことでしょう。同じ景色を見ながら、万葉人は何を感じ、何を考えていたのだろうか…。しばし、そんな想いに時を忘れてしまいました。

伝統的な奈良を象徴するかのような明日香の佇まい。この平穏な風景がいつまでも続いてほしい、そんなことを願わずにはいられない春の一日でした。

**ご挨拶****同窓会竹柏会****代表理事****久保 三左男**

人生100年時代における

同窓会活動

会員の皆様におかれましては、日々健やかにお過ごしのこととお喜び申し上げます。多くの会員の皆様に支えられて同窓会活動が続けられていますことに改めて感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染者の数も減少し、日常が戻りつつある令和6年元旦、能登半島地震が発生し、多くの会員が被災されました。心からお見舞い申し上げます。被害は石川県に止まらず近隣の富山県・福井県・新潟県等にも及び、多くの人々の正月の家族団らんを取り上げてしまいました。天災は、時とところを構わず突然やってきます。日常的にいつ災害が襲ってくるか分かりませんが、まさかの時への対応と心構えを忘れずにしていきたいものです。被災地の日も早い復興をお祈りしています。

○人生100年時代の同窓会活動

人生100年時代に入りました。医学の進歩と人々の健康への取組が進み今日の状況が出現してきたのではないかと考えます。

入学時に同窓会に入会し、人生100年となりますと、同窓会員の時代が約80年間あります。この長い期間を有意義に感じていただくために、日本各地での「支会活動」の活性化を提案します。

現在、奈良県・大阪府・三重県・京都府には支会があり、それぞれの地で、同窓生の集いがもたれています。お互いの親睦を深めたり、後輩との交流を通じて育てる機会を企画し催しを実施したりしています。令和6年度は、京都府2番目の支会「あおによし会・京都市支会」誕生の予定です。

同窓生は北海道から沖縄まで全ての都道府県に在籍しています。まずは、数人からの集まりでも結構ですので各地で取り組んでみてください。同窓会の事務局に連絡いただければ、支会の持ち方について援助させていただきます。卒業生が各地で集まり絆を深め、学生時代を振り返ることは長い人生の中で

意義あることだと考えます。どなたからでも結構です、遠慮せずにご相談ください。連絡をお待ちしています。

○同窓会の活動を支えているのは皆様からの会費です

同窓会は母校と卒業生を結ぶ大切な役割を担っていることを自覚し、正確な母校のニュースをお伝えするとともに会員の活躍を紹介していきます。どうか会員の皆様、会費の振り込みにご協力いただきますようお願いいたします。会費の振り込みの便宜を図るために、コンビニ振り込みを導入したりして工夫を進めてきています。このことにより、わずかな前進ではありますが、令和時代の卒業生の会費納入率が上がってきている事も確認されています。会費の納入は年度毎に終結しますので、過去に遡っての請求等はありません。

○大学の「未来を育む基金」へのご協力に感謝します

令和5年に大学が諸物価値上がりの中、特に電気代の高騰に困っていること、また、教員の研究費の削減など、財政的に厳しい状況が続いているという訴えを受け、同窓会として応援できることはないかと理事会で議論し、大学の「未来を育む基金」事業への協力を全会一致で決定し、会報「まほろば」の発送時に奈良教育大学基金「未来を育む基金」の趣意書を同封させていただきました。令和5年9月末日の時点では約120万円が集まり、令和6年3月には200万を超える金額になりました。会費納入に合わせてのご協力に、感謝申し上げます。

この協力は令和6年度も継続し、以降は少し間隔を開けて行なう予定です。引き続いてのご理解ご協力をお願いします。

○奈良へのご案内

奈良には多くの観光客が日本各地から訪れてきています。コロナ禍も収まりつつあり、外国からの観光客もずいぶん戻ってきています。東大寺の参道に修学旅行生の列や、外国人の姿を見ると懐かしい風景です。奈良は春夏秋冬どの時期に訪れていただいても温かく歓迎してくれます。同窓会員の皆様も学生時代を思い起こし、奈良の地を訪れ探索してください。奈良はきっと皆様の心を癒やしてくれるものと思います。

結びに会員の皆様のご健康ご多幸をお祈りしご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

奈良教育大学

学長

宮 下 俊 也

「学び合い、支え合い、 高め合う」大学を目指して

令和6年度は、コロナ禍前と同じスタイルによる入学式で幕を開けました。同窓会からは久保三左男代表理事、松原さおり理事のご臨席を賜り、学歌も合唱団と吹奏楽による演奏が復活し、キャンパスの桜たちも入学式を待って咲いてくれました。平穏な日常にある幸せとともに、学生の笑いや語り合いが大学で最も大切であることをあらためて実感いたしました。

本年度は、全国初の附属幼保連携型認定こども園が発足したことも特筆すべきことです。まず2歳児の受け入れを開始し、令和8年度からの0歳児受け入れに向け、本年度後期より園舎を改築します。このことにより、我が国の少子化の是正と、研究に裏付けられた乳児期からの「教育」を推進して参ります。

さて、奈良女子大学と法人を統合し「国立大学法人奈良国立大学機構」となって2年がたちました。「奈良から世界へ、古代から現代まで、深い学びで、次

代を拓く、多様な人と文化の醸成拠点」を機構の経営方針として掲げ、「学び合い、支え合い、高め合う」組織を形成することを目指しています。これは、奈良女子大学との間だけではなく、本学の学生や教職員間、あるいは他の学術機関・自治体・産業界、そして素晴らしい同窓会の諸先輩方とも学び合い、支え合って、奈良教育大学の伝統をさらに高め合っていきたいと思うところです。

多様性と包摂性は、「奈良教育大学ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言」にも掲げているところですが、時間軸で考えると、過去と今、今と未来のつながりを尊重し、そこでもまた「学び合い、支え合い、高め合う」ことが歴史を積み重ねる上で重要なことは言うまでもありません。その時、同窓会の存在はきわめて貴重なものです。現役の学生に対するご支援の一つである特設講座「まほろば徳・得講座」を開催していただいていることも本当にありがたいことです。後輩や子どものために何か役立つことをしたいと思う学生が多いことは、本学の特色であり誇りでもあります。裏返すと、同窓会の諸先輩方が自分たちのために支援してくださっている御恩に対する感受性も多くの学生が持ち合わせているものと思っています。このご恩は、きっと後輩たちにも伝えていってくれるでしょうし、何より、教職に向かう強いモチベーションになるものと確信しております。

多忙化などで教職を目指す若者が少なくなっている今、それでも夢と希望をもって教師を目指している本学学生に対し、これからもなお「学び合い、支え合い、高め合う」ことの尊さをご教示いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

未来を育む基金 ご支援のお願い

昨今の光熱費や物価の高騰により、学生の修学や本学の各種事業が大きな影響を受けており、一部事業を取りやめるなど、非常に厳しい状況が続いています。

この中で、奈良女子大学との法人統合を契機に、奈良女子大学との教育研究連携や、県内の国立・県立の学術機関との包括的な連携（産地学官連携プラットフォーム設立）など、新たな取組を進め、本学の教育研究の充実に努めております。

どうか、奈良教育大学基金（同封パンフレット）へのご寄附等、皆様のあたたかいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

（奈良教育大学総務課）



今年も開催します!!

ホームカミングデー2024

開催日 11月16日(土)

【輝薨祭と同日開催】

卒業生・修了生の皆様をキャンパスにお迎えし、ホームカミングデーを開催します！詳細は決定次第、大学HPにて更新いたします。（右のQRコードからご確認ください）みなさまのお越しをお待ちしております！





ご挨拶

奈良国立大学機構
理事長
榊 裕之

教育大学の特色と法人統合を活かし、総合的な知性を持つ人材の育成を進めよう

奈良教育大学と奈良女子大学は2022年4月に法人格を統合し、奈良国立大学機構を発足させました。二大学は、約100名と200名の教員が、毎年250名と500名の新生を受け入れる小規模組織ですが、尋常師範学校と女子高等師範学校を前身とする伝統の故に、人文・社会科学系と理学・技術系に加え、芸術や体育系の教員を擁しています。このため、カリキュラム次第ですが、学生は深い専門性に加え、幅広い見識と専門分野の壁を越えた対話力も養うことができ、総合的な知性を養えられます。法人統合を機に両学が支え合いを強め、この良さを開花させるように努めたいものです。

さて、高等教育組織には種々の形がありますが、それぞれに強みと弱みがあります。第一群は、多様な学術に共通の知的基盤となるリベラルアーツを学ばせた上で、専門性を修得させる総合大学です。本来、総合的な知性の育成に最適な組織ですが、大規模であるため、学部や学科を越えた学際的学びや対話がなされにくいのが現状です。第二群は、工学や医学などの特定専門分野の履修に重点を置く単科の高等教育組織であり、広い見識をどう育てるかが課題

になっています。第三群は、学校教師の育成を担う師範学校を源とする組織です。前述の通り、異分野間を繋ぐ総合的な知性の育成に適した教師団を備えていますが、各分野の教師数が少なく、学際的学びを促進するのに要する人的資源の確保が困難な状況にあります。

我が国は1960年以降に大学の理工系学部を拡げ、優れた技術者を大量に育て、その活躍により魅力的製品の開発を進め、国力と生活水準を飛躍的に改善させました。しかし、90年代以降、技術の高度化に加え、環境保全への配慮や経済体制の国際化への対応など、幅広い見識と高度な判断が必須の案件が続出するに至り、わが国の優位性は弱まっています。例えば、世界を席巻した半導体分野でも、人工知能システムに向けた回路設計や素子の極限的微小化に向けた特殊光学装置の開発など、複数分野の専門家の協業による高度な対応が必須の領域で苦戦が続いています。これは、日本の大学や企業が、個別領域の専門家は育成できても、総合的な知性を持つ人材を十分に育てられなかったことを示しています。

次代を担う子どもたちが抱く知的関心は、親に加え、小学校や中学校の教師が興味を持ち、話題にすることに大きく影響されます。それだけに、教育大学で学び、学校教師を目指す学生には、自身の専門領域に留まらず、理系・文系の壁を越え、芸術も含む幅広い領域に蓄積された知的産物の豊かさや面白みに開眼して欲しいと願っています。また、そうして得られた広い見識や興味を、教師として子どもたちに伝え、日本の知的基盤がより豊かなものになることを願っています。今回の法人統合で、奈良教育大学の学生は、奈良女子大学に加え、奈良カレッジと呼ぶ連携組織の教師たちとの繋がりも活かすことができつつあります。こうした取組みにより、総合的な知性の育成が一段と進むことを心から願うものです。

キャンパス
だより

入学生はどの都道府県から？

(令和5年度、卒業高校所在地で調査)

1 奈良県	72名	6 愛知県	8名
2 大阪府	65名	7 和歌山県	8名
3 兵庫県	27名	8 広島県	8名
4 京都府	20名	9 三重県	7名
5 香川県	10名	10 山口県	6名
		11 大分県	4名

卒業生の進路は？(令和5年3月卒業修了者)

*資料：令和5年大学概要

教員	幼稚園	7名	公務員	18名
	小学校	47名	企業	53名
	中学校	34名	大学院進学	35名
	高等学校	8名	保育士等	5名
	大学短大高専	0名	未就職者	21名
	特別支援学校	4名		
	期限付採用	66名		
			【合計298名】	

令和5年度 一般社団法人奈良教育大学 同窓会 竹柏会 一般会計 決算報告 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(歳入の部)

単位:円

款	項	本年度予算額(A)	3月31日現在(B)	比較増減額(B-A)	備 考
会 費		5,268,000	5,079,748	△188,252	
	1 通常会費	2,200,000	2,011,748	△188,252	会員及び正会員 1003名
	入学時	2,408,000	2,408,000	0	学生270名、院生62名
	2 入会金	0	0	0	
	入学時	660,000	660,000	0	学生270名、院生60名
繰 越 金	前年度繰越金	2,762,768	2,762,768	0	
利 子	利子及び雑収入	10,000	12,442	2,442	広告料、利子
合 計		8,040,768	7,854,958	△185,810	

(歳出の部)

単位:円

款	項	本年度予算額(A)	3月31日現在(B)	比較増減額(A-B)	備 考
事 業 費		4,550,000	3,529,258	1,020,742	
	1 広報費	2,500,000	2,351,629	148,371	「まほろば」36号印刷、発行等
	2 卒業記念品費	230,000	174,555	55,445	卒業証書用筒、紙袋、祝賀会
	3 研修費	300,000	122,010	177,990	一日親睦研修バス代補助
	4 徳・得講座費	120,000	40,864	79,136	講師謝礼
	5 支会活動助成費	600,000	377,100	222,900	支会活性化対策費
	6 学生活動助成費	350,000	350,000	0	大学祭、部活動支援費
	7 教育のつどい	150,000	83,100	66,900	会場費、出演団体謝礼 等
	8 環境整備費	300,000	30,000	270,000	桜管理費
管 理 費		1,580,000	592,220	987,780	
	1 役員旅費	500,000	262,580	237,420	理事、支会長等 旅費
	2 備品費	300,000	0	300,000	
	3 消耗品費	100,000	20,682	79,318	印刷用紙、事務用品 等
	4 通信費	150,000	117,245	32,755	切手、はがき、電話料金 等
	5 賃借料	100,000	55,974	44,026	コピー機リース料、コピー代
	6 会議費	80,000	17,129	62,871	会議お茶代
	7 事務局運営費	200,000	76,050	123,950	法務局登録費、税理士費 等
	8 総会費	150,000	42,560	107,440	総会会場費補助
事業基金		1,000,000	1,000,000	0	
	事業基金	1,000,000	1,000,000	0	令和5年度分基金として繰入
予 備 費		910,768	12,523	898,245	
	雑費	910,768	12,523	898,245	諸行事準備費用 等
合 計		8,040,768	5,134,001	2,906,767	

差引現在高 7,854,958円 - 5,134,001円 = 2,720,957円

2,720,957円は、次年度に繰り越します。

事業基金現在高 (令和6年3月31日現在)

南都銀行 (定期) 4,816,699 円 (令和5年度基金100万円、利子57円を含む。)

学生活動助成基金現在高 (令和6年3月31日現在)

南都銀行 (普通) 220,228 円

令和5年度の会計については、上記の通りであることを報告いたします。

令和6年3月31日

会 計 森本玉枝

会 計 四野宮康子

会計監査報告

令和5年度の会計決算報告書を詳細に監査いたしましたところ、諸帳簿等はよく整備され、正確適正に処理されていることを認めます。

令和6年4月17日

監 事 金 治 延 幸

令和5年度 会 務 報 告

4月5日	大学入学式	10月15日	一日親睦研修旅行 大阪城水上観光クルーズ・ピース大阪等 参加者36名(内学生4名)
4月19日	会計監査を受ける	10月28日	山辺支会総会
4月21日	第1回理事会	11月2日	東大阪市興東会総会
4月21日	第1回まほろば編集会議	11月8日	第4回理事連絡協議会
4月22日	大阪市興東会総会	11月9日	天理支会総会
4月29日	第1回正会員総会 出席39名・委任状64名計103名	11月12日	大阪市興東会退職校長会総会
	第2回まほろば編集会議	11月19日	大学祭でのホームカミングデー ＝同窓会OBと大学との交流会
5月10日	第1回理事連絡協議会	11月19日	大学との話し合い 大学の現状、「未来を育む基金」の募金 状況報告等を受ける
	第3回まほろば編集会議	11月23日	支会長・評議員合同会議
5月21日	同窓会総会(於) 奈良ホテル 参加者 37名	12月13日	第5回理事連絡協議会
5月31日	学生(自治会等)との話し合い (徳・得講座等)	12月16日	教育のつどい(於) ホテル日航奈良 参加者 35名
	第4回まほろば編集会議	12月23日	大和郡山支会総会
6月9日	第5回まほろば編集会議	令和6年	
6月14日	第2回理事連絡協議会	1月7日	桜井支会総会
	第6回まほろば編集会議	1月17日	第4回理事会 第2回徳・得講座 参加者14名 (内大学教授1名学生3名) 講師 香川理事
6月17日	名張支会総会	2月7日	第6回理事連絡協議会
6月30日	まほろば36号 発行	3月8日	第7回理事連絡協議会
7月5日	第2回理事会 第1回徳・得講座 参加者32名(内学生22名) 講師 久保会長	3月22日	卒業式に向けての準備
8月2日	事務局会議	3月25日	大学卒業式 卒業生 310名 学部 250名 大学院 60名
8月5日	京都支会総会	3月25日	学生(クラブ・サークル) 支援金贈呈
8月23日	学生(自治会等)との話し合い (一日研修旅行について)		
9月8日	第3回理事連絡協議会		
9月29日	大学中間卒業式 4名 学部2名 院生2名		
10月11日	第3回理事会		

令和6年度 奈良教育大学同窓会竹柏会 活動方針

目 的 奈良教育大学同窓会竹柏会は、会員相互の親睦を図り、教育並びに社会の進展に寄与することを目的とする。

また、大学の教育方針にそって協力し、大学並びに竹柏会の更なる発展をめざす。

重点目標

1. 大学当局との連携を確かにし、大学の充実と竹柏会の発展に努める。
2. 会員相互のふれあいを大切にし、同窓会意識の高揚を図るとともに会費納入への理解を深める。
3. 学生会員に向けての支援活動を拡充する。体育・文化部活動への援助を行う。
4. 樹木の管理等、学内環境の整備に努める。
5. 年間事業の活動と支会活動との連携を密にする。支会を援助し、新しく支会を設立する。

令和6年度 奈良教育大学同窓会竹柏会 役員紹介 (敬称略)

名誉会長	宮下 俊也	代表理事	久保 三左男	理事	山田 昇	竹柏会委員	豊田 弘司
顧問	長友 恒人	理事	松原 さおり		山田 恵敏		深田 展巧
	柳澤 保徳		小谷 勝彦		奥村 浩一		西岡 由郎
	長田 光男		香川 一実	監事	金治 延幸		林田 晃典
	西田 史朗		小林 邦子	竹柏会委員	岩橋 恭子		山崎 淳美
	中川 克巳		森本 玉枝		武村 恵美		枝元 哲
名誉理事	井上 三夫		増田 辰夫		向出 佳司		今井 美之
	松村 恵司		吉田 誠		滝川 満夫		
	北 良夫		近藤 義之		銭本 三千宏		
	吉田 貴子		四野宮 康子		中澤 新治		

支会長	奈良市	東畑 平昭	支会長	吉野	評議員	生駒市	上西 均	評議員	五 條	尾崎 和弘
	天理市	村井 稔正		高校			出原威佐夫			杉崎 明子
	大和郡山市	三村 精一		大阪市東区		生駒郡	田畑 吉一		内吉野	
	山 辺	中西 拓也		東大阪市			中谷 英二		吉野	
	生駒市	松村 恵司		八尾市		桜井	脇田 正美		高校	稲葉 功
	生駒郡	宮前 清和		京都			北川 雅尚		大阪市	池田 眞一
	桜井市	半田 孝		名張		磯城郡	前川 美幸			今中 綾子
	磯城郡		評議員				松村 宙亨		東大阪	松川登志子
	宇陀	田中 三彦		奈良			松岡 清之			植田 勝
	橿原市	山本 秀樹				宇陀市	向井 清		八尾	加藤 賢一
	高市郡	上西 義次					原田須加子		京都	井戸野仁司
	大和高田市	吉川 淳		奈良東部		橿原	中島 浩一			濱 喜代巳
	北葛城郡	増田 辰夫				高市	西井 良之		三重	廣瀬 裕司
	香芝市			天理		高田				布村 進
	葛城市	井村 享史				北葛	森岡 義博			
	御所市	野阪 雅美		大和郡山市		香芝				
	五條市	喜多 孝行		山 辺		葛城	宅 康次			
	内吉野	久保 隆				御所				

寄贈書の紹介



描いて 理科して 楽しんで ―奈良・紀寺―

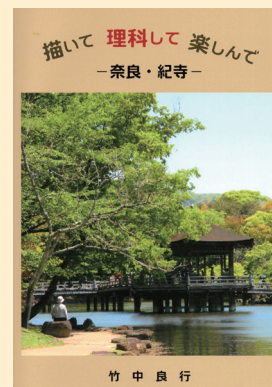
竹中 良行 (S33) : 新踏社

「もう歳だから…」と車を手放して奈良・紀寺に引っ越して3年あまり、自分の足で歩き回り、目にした風景を水彩スケッチ、発見したことを理科しました。「京終駅を出発した明治の汽車」「浄教寺にやってくるアサギマダラ」など20話と水彩スケッチ28点を載せた『描いて理科して楽しんで―奈良・紀寺―』を88歳の誕生日に完成、これは私の10冊目の本、A5判130ページ、「びっくり、びっくり」が8つもあります。

- ① 初めてのオールカラーの本、下手なスケッチもきれいに仕上げてもらえました。
- ② 印刷発注の前に「こんな本です」とお見せしたら、ご注文があり出版部数が200以上増えました。
- ③ 昔のプレパートを大学の和田穰隆先生が撮ってくださいました。卒業後66年も過ぎたのにと感謝です。
- ④ 友人、知人にお贈りしたら、奈良・紀寺に思い出のある方が多く、「なつかしいよ」とのお便りをいただきました。

- ⑤ 若い人たちが使っている「メルカリ」に送料別1320円で出品したら売れました。初体験です。
- ⑥ 寮美千子さんが毎日新聞奈良版の「ならまち暮らし」で紹介してくださいました。
- ⑦ 現在、ボランティアの方による音訳が進行中、私の音訳本2冊目です。
- ⑧ この本のことを同窓会会報「まほろば」に載せてくださることになりました。

ありがとうございます。感謝、感謝、同窓会事務局にご連絡ください。10名の会員さまに贈呈させていただきます。



同窓会だより

正会員(推進委員)総会報告

令和6年4月27日、奈良教育大学山田ホールを会場に正会員総会が開催されました。「正会員総数124名のうち、28名の出席と74名の委任状がある」との報告があり、総会の成立が確認されました。久保三左男代表理事が開会の挨拶で、ナギの植木を手に竹柏会の名前の由来を紹介し、総会への参加の感謝を述べました。

議長に増田辰夫理事が選出され、令和5年度会務報告・決算報告・会計監査報告、令和6年度理事・監事、会則の変更^(※)、令和6年度活動方針・予算案が審議され、いずれも満場一致で承認されました。吉田誠理事が閉会の挨拶を述べ、総会は終了しました。



▶ 渕矢俊成氏(S36)から寄贈されたナギ



「会則の変更^(※)」について

- ① 正会員総会は年1回開催するが、開催月を4月と限定せずに開くことにした。
- ② 令和5年度、コロナ禍で3年間開催できなかった「同窓会総会(5月)」と「教育のつどい(12月)」を実施した。令和7年度からは、2つの会を統合し「同窓生のつどい」として、より多くの会員が親睦を深められる会として企画・運営する。

「正会員(推進委員)」について

正会員は総会での議決権を有し、同窓会活動の推進を担っていただきますので、令和5年度より「正会員」の名称に(推進委員)を添えて、その役割を明確化しました。

年会費は3000円(1,000円単位での増額可)で、新しく「正会員(推進委員)」への登録をしていただける方は、同窓会事務局までご連絡ください。

同窓会総会の開催

令和6年5月19日、奈良ホテルを会場に同窓会総会を開催しました。

第1部では、ご来賓の宮下俊也学長と榊裕之奈良国立大学機構理事長よりご挨拶をいただきました。宮下学長からは、付属小学校の問題や付属幼稚園が認定こども園になったこと等の話があり、大学の基金への協力依頼がありました。榊理事長は、小学校時代の担任の先生との出会いや、アメリカへの留学を経て工学への道を歩まれたこと等を話され、教育大学や同窓会への熱い思いが伝わってきました。

第2部では、竹中良行氏(S33)の乾杯で懇親会が始まり、料理と飲み物を楽しみながら、互いに近況報告などをして旧交を温めました。テーブルスピーチが順に回中、

村井稔正氏(S41)がステージで得意のマジックを披露してくださり、大いに会場が盛り上がりしました。中澤新治氏(S55)のリードで学歌を全員で合唱した後、渕矢俊成氏(S36)の発声で万歳三唱を行い、金治延幸監事の閉会の言葉でお開きとなりました。

来年度からは、同窓会総会の形を変え「同窓生のつどい」として、新たに世代を超えた会員相互の交流の場を設けたいと考えています。



教育のつどいの開催

令和5年12月16日、ホテル日航奈良を会場に教育のつどいを開催しました。久保三左男代表理事が開催趣旨を述べ、奈良の教育を進めるためにご尽力をいただいているご来賓の紹介があり、宮下俊也様(奈良教育大学学長)・疋田進一様(奈良県議会議員)よりご挨拶をいただきました。続いて本学の音楽科の卒業生を中心に結成されている楽桜会の皆様が、「奈良教育大学学歌・じゃあね・Jupiter」の混声合唱を披露してくださいました。

第2部では、吉田貴子名誉理事の乾杯で懇親会が始まりました。料理を楽しみながらのテーブルスピーチや、同窓生の歌手である結城彩さんの歌唱もあり、マジックも飛び出して楽しいつどいとなりました。北良夫名誉理事の万歳三唱の後、松原さおり理事がお礼の言葉を述べ閉会しました。



がくおうかい

楽桜会混声合唱団

平成21年、第1回楽桜会コンサートを機に奈良教育大学音楽専攻者同窓会「楽桜会」会員による合唱団として結成されました。指揮は佐竹司郎氏、ピアノは島崎始子・森美也子氏です。団は、楽桜会会員を中心に活動していますが、男声の人数が足りませんので、会員以外の方にも参加していただいています。練習は月2回、日曜日午後1時30分から2時間程度、大和八木の「すみれホール」、大和郡山市南部公民館で行っています。

また、年に1、2度秋篠音楽堂での「楽桜会コンサート」「ブリリアントコンサート」などに出演し、演奏の発表をしています。

研修部だより

令和5年度「まほろば徳・得講座」は
盛会に行われで好評をいただきました。

- ▶ **第1講** (令和5年7月5日) 於: 山田ホール
講師: 竹柏会代表理事 久保 三左男 先生
表題: 「人事担当者が求める学生」—面接試験までに知っておくと得する話—
内容: 教員採用テスト対策について、堅い内容の中にユーモアのある温かさを交えて講演していただきました。
- ▶ **第2講** (令和6年1月17日) 於: 山田ホール
講師: 竹柏会理事 香川 一実 先生
表題: 「今、授業が益々おもしろい!! 『不易・流行』を踏まえて」—ICTの活用・協働的学びなどで繋がり合い・学び合う子ども達の具体的な様子を通して—
内容: ICTの活用で児童たちの学習の様子から多くを学べ、実践的なワークショップも開催していただきました。



令和5年度「一日親睦研修旅行」は
同窓生の繋がりが広がりました。

- 日 時: 令和5年10月15日。集合解散は近鉄奈良駅と近鉄大和八木駅。
- コース: 大阪水上バスアクアライナー⇒ホテルアウイナ大阪内レストランカステロ(昼食)⇒ピースおおさか(大阪国際平和センター)
- 内 容: 水上バスから「水都大阪」を楽しみ、昼食もドリンクと共に戴きました。ピースおおさか(大阪国際平和センター)では平和学習を体験しました。



NEW!!

令和6年度「まほろば徳・得講座」「講演会」のお知らせ

「まほろば徳・得講座」

- ▶ **第1講** 講師 妖怪書家/書家 逢香 先生
表題: 「書道と妖怪に導かれて」
—奈良教育大学での出会い—
日時: 令和6年7月3日(水) 13:30~15:00
場所: 山田ホール
- ▶ **第2講** 講師 大阪市立喜連東小学校長 木村 鑑廣 先生
表題: 「地域学習の教材づくり」
—大阪は歴史の宝庫—
日時: 令和6年12月4日(水) 13:30~15:00
場所: 山田ホール

奈良教育大学同窓会員(在学生、卒業・修了生)のみならずへ

まほろば徳・得講座

【教員をめざす特設講座】主催: 同窓会竹柏会

第一講 表題 「書道と妖怪に導かれて」
—奈良教育大学での出会い—

日時 2024年7月3日(水) 13:30~15:00

講師 妖怪書家/書家 逢香 先生

6歳から書道を学ぶ。大学に入學後、寛体仮名の授業を受けたことをきっかけに個性豊かな妖怪たちに興味を持ち、墨を使って描きはじめる。大阪府出身、奈良県在住。奈良教育大学 伝統文化教育専攻 書道教育専修 卒業 高等学校教諭一種免許状(書道)、小学校教諭一種免許状、書道師範免許 取得 元 大阪府立高校書道教諭、奈良市観光大使、一般社団法人モノ・モン代表。

※会場 山田ホール
※受講料 無料
※筆記用具持参
※資料は当日配布

「公開文化講演会」

講師: 国立大学法人奈良教育大学 学長 宮下 俊也 先生
演題: 「私が校歌を作曲したおはなし」
—奈良を歌うということ、永く歌い継ぐということ—
主旨: 縁あって、五條市立西吉野農業高校、橿原市立白檀小学校、奈良県立大学附属高校の校歌を作曲する機会をいただきました。それらの歌詞には、それぞれの学校を包む奈良の風景が描かれています。そのイメージをどのように音楽にしていっったか、そして、児童生徒に愛され、地域の方々とともに永く歌い継がれていくためにどのような仕掛けを施したかを、演奏とともに楽しくお話いたします。

日時: 令和6年10月27日(日) 13:30~15:00
場所: 山田ホール

「まほろば徳・得講座」や「公開文化講演会」(いずれも参加費無料)では学生会員・同窓会員の皆様や教育に関心のある方々のご参加も大歓迎いたします。是非お誘い合わせの上、ご参加ください。詳しい内容は同窓会のホームページやインスタグラムをご覧ください。

ご参加の場合は同窓会事務局のEメールや電話・ファックスでご連絡ください。
※連絡なしの当日ご参加も可能です。

奈良教育大学
公式Instagram



参加申し込み

TEL: 0742-21-6101 FAX: 0742-21-6102
Eメール: nakayodoso130@gmail.com



支会だより

「竹柏会 桜井支会の集い」 初めて開催できましたあ！

半田 孝(S63)

年が改まった令和6年1月7日、七草がゆをいただいてから、「竹柏会 桜井支会の集い」へ出かけました。いつも幹事会議を行っているお店を借り切った開催となり、旧知の者はもちろんのこと、初めての出会いとなった者も寛いだひと時を過ごすことができました。

第1回目の集まりとなったこの日の参加者は、師範学校、学芸大学、そして教育大学それぞれの時代を知る11名。準備から当日の運営まで担ってきた幹事一同が、受付で一人ひとりに声をかけ、温かい雰囲気参加者を迎えることができました。

した。

くじによる席につき、各自の近況報告と食事が進むと緊張もほぐれ、次第に隣席同士で会話が弾むようになりました。学舎にまつわるエピソードや勉強そっちのけで仲間と遊んだ懐かしい日々を思い出し、大いに笑い、皆が学生に戻ったような楽しい時間となりました。

そして、いつの間にか、今、求められる教育のあり方について語り合い、互いの中にある教育へのたゆまぬ思いを確かめ合うと、同窓生としての誇りを感じずにはいられませんでした。

話は尽きず名残を惜しみ、再会を期してお開きとなりました。



東大阪支会 近況報告

植田 勝(S57)

コロナ禍のため4年ぶりの開催となった東大阪支会総会を、令和5年11月2日(木)夕刻より、東大阪市内にて開催しました。今回は奈良教育大学のつながりを再確認するためにも、幅広い世代の卒業生に参加の呼びかけをしました。参加者は、学校の教職員・管理職として勤務する現役世代から、退職後も新たな職種で活躍する世代、あるいは悠々自適に人生を謳歌している世代まで、年齢も生活スタイルも様々な皆さまです。

若い世代も気軽に参加できるように、「交流を深める『なら、きょう』』というタイトルで、ビュッフェ形式の食事と飲み物を用意し、好きなアルコールも自由持ち込みにするなど、堅苦しくない会合としました。

当日は、忙しい職務をやりくりして時間に間に合いホッとする現役職員や久しぶりの懐かしい笑顔にホッとする退職者など、現役から退職者まで24名が集まり、それぞれが今頑張っているホットな話題で盛り上がりしました。

第1部の総会では、本部同窓会の久保三左男会長から開催のお祝いと感謝の言葉を頂き、大学同窓会をさらに発展させようという激励を受け、東大阪支会の更なる参加者拡大を誓いました。

第2部ではアルコールも交えて食事を取りながら、会員によるマジックショーを見たり、様々な話題で歓談したりと、楽しいひと時を過ごし、解散時に開催記念の写真撮影を行いました。

幅広い年代が集まり、東大阪支会の歴史とつながりのありがたさを感じることができました。

これからも、若い世代も多く参加することで、伝統を継承し、発展を続けられる東大阪支会の同窓会活動を企画していきたいと思います。



三重支会名張支部誕生

廣瀬 裕司(S48)

『全国各地に同窓の支会を!!』の呼びかけを受け、布村進先生(S40)が世話人となって、三重支会名張支部が創設された。三重県在住の同窓会員は400名を超えるが、そのうち名張市は最も多く約100名、次いで伊賀市。まず名張支部を立ち上げようと、布村先生は知り合いをたよりながら名簿を作成、役員依頼、会則案作成等々、大変ご苦労をいただいたが、ようやく2017年5月設立準備会を設置。翌2018年10月に12名の参加を得て、結成集会が執り行われた。2019年には、第1回支部総会並びに懇親会を開催。しかし参加者は7名と少し寂しい思いもした。

名張市は1970年ごろから急激な宅地開発がされ、大阪や奈良から移り住んできた住民が多く、地域とのつながりが希薄だといわれる。同窓生もその例にもれず、大阪や奈良で教員をしている人が多く、市内の学校では同窓生が少ない。であるからこそ、支会支部を充実させ、同窓生のつながりを幅広く持っていくことが大切であると思う。

2020・21・22の3年間は、コロナの影響で総会が中止。多くの人が集まることを敬遠する傾向が広がっていく中、2023

年は「奈良教育大学同窓生の集い」と銘打って、無料で借りれる地域の集会所を会場に、午後2時から茶菓子のみ、参加費1000円で開催した。渕矢俊成会長(S36)の挨拶、本部からお越しいただいた近藤義之理事から「創設130周年を超えた同窓会竹柏会」についてお話いただき、その後15名の参加者が自己紹介、近況報告を面白おかしく話をした。定年退職後ボランティア活動や趣味に生きている人、現職の教員、一般企業に勤めている人、大学生活の思い出、話を聞いているうちに会場は初対面とは思えないほどの笑顔と笑い声に包まれた。午後4時、あっという間にお開きの時間となった。30歳代から80歳代と年齢こそ違え度、青春時代を同じ学び舎で過ごした縁で、こうした集まりができる。新たに人間関係ができたことに感謝をしながら、来年は一人でも多くの仲間が増えることを楽しみに、会場を後にした。



Report

ナラノヤエザクラの増殖

奈良教育大学 技術教育講座 箕作 和彦

今年は、暖冬といわれサクラの開花が早くなると予想されていましたが、大学のソメイヨシノは昨年より10日ほど遅れて開花しました。一方、4月末頃から開花がみられるナラノヤエザクラは4月中旬には開花しており、どのサクラも気温の変化に敏感に反応していることを改めて感じます。

さて、本学では2019年3月に奈良教育大学同窓会主催の植樹式が行われ、サクラの苗木11本とタチバナの苗木2本が学内の各場所に寄贈されました。大学の管理棟前に‘紅枝垂’などのシダレザクラ、寧楽会館横に黄色のヤエザクラ‘ウコン’、講堂前に‘御車返し’などのヤエザクラ、学生会館前にヤエザクラ‘舞姫’、正門横と管理棟前にタチバナの木が植えられ毎年綺麗な花が見られます。寄贈されたサクラの内2本は、奈良公園などで見られるナラノヤエザクラで国の天然記念物に指定される木もあります。

植樹式に先がけて、同窓会のご尽力により奈良県森林技術センター森林資源課からナラノヤエザクラの芽を頂くことができ、当研究室で組織培養による芽の増殖および苗木の育成を行いました。また、大学の図書館前と講堂横にあったナラノヤエザクラの老木から芽を採取して

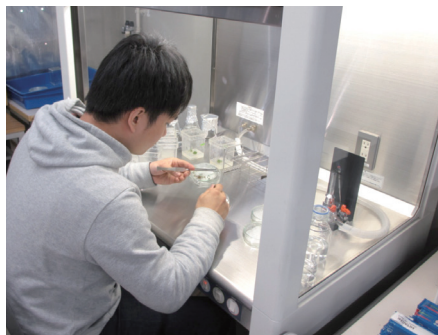


図1. ナラノヤエザクラの組織培養におけるクリーンベンチ作業



図2. 培養中のナラノヤエザクラ



図3. ナラノヤエザクラ苗の植え替え



図4. 鉢に植えたナラノヤエザクラ

組織培養を試みました。組織培養による植物個体の増殖は、材料を採取して表面殺菌後、クリーンベンチ内の無菌環境で培地に芽を置床して増殖させます（図1, 2）。次に、ある程度成育した芽は、試験管の中で発根させて小さな苗にします。芽や小さな苗の間は、研究室の人工気象器で光と温度を一定に保って培養します。その後、草丈が5 cm程度になった植物体を試験管内の環境から外部の環境に慣らせて素焼き鉢に移植して、ようやく鉢物の苗ができます（図3, 4）。この活動では、森林技術センターの河合氏からアドバイスを受け、研究室の学生たちが積極的に協力してくれました。

植樹式以降、ナラノヤエザクラの苗は、他のサクラやタチバナとともに同窓会役員の方々と本学学生会館の本谷氏により管理いただいています。特に、学内にシカがいるため、苗木の若い枝や葉が食害される危険があるので金属ネットで覆っていただきました。また、夏の炎天下では、学内に点在する木々に適宜かん水するなどとても丁寧に対応いただきました。しかし、暴風雨等により枝が折れたり、成育が止まり枯れる苗がありました。自然環境で苗木を育てることの難しさを実感しました。今後、育成したナラノヤエザクラが綺麗な花を咲かせてくれることを楽しみにしています。

これまで、ナラノヤエザクラの増殖にご協力いただきました本学同窓会森元会長、久保会長、役員の皆様、奈良県森林技術センター河合様、本学加藤前学長、宮下学長、教職員の皆様、研究室の卒業生にお礼申し上げます。

会員だより

心のふるさと 一本学の英語科

宇佐見 太市 (S49)



昭和45年4月に文科英語専攻（＝英語科）に入学した私は、卒業までの4年間、英米文学・英語学・英語教育学・仏文学等の芳醇で峻厳な授業の醍醐味をしんから満喫した。実践的英語運用能力修得のみならず、心の深い人になりたいという思いから、英米文学に豁然と目を開かされた。

当時の英語科一学年の学生定員は6名で、先生方の個人研究室内での少人数授業がほとんどであった。19世紀

の英国小説と軽やかに戯れることを私は学んだ。また、外国語の専任教員と英語科の学生が合同で運営する学術研究会も、私にとって愉楽であった。考えることの尊厳を感取できたと思う。

私は、満28歳から満70歳までの丸42年間、大学の専任教員（英語英米文学）を務めたが（現在は大学名誉教授）、私の教育・研究の原点は、本学・英語科の無限の深奥を湛えた高邁な学問であったと、晩年になってから想到するに至った。これまで無関心であり続けた本学同窓会に、それゆえ、心を寄せるようになった。

英語科で学んだ「英文学と英語教育学の融和に拠って生起する学知」は、何かを渴き求めていた当時の私の人生の指針となり、現在の私のライフワークである「実践知性としての英文学研究」へと繋がった。

このたび、英語科に深く思い致したく寄稿させて頂いた。ご寛恕を乞う次第である。

ESDの推進を頑張っ

会員だより

鎌倉市立西鎌倉小学校勤務 川坂 俊一 (H9)

大学を卒業してかれこれもう25年ほどになります。これだけ時間が経つと大学生活も遠い昔話のようになりつつあります。しかし、最近、日本でも 当たり前のようになったSDGSに関連して 奈教大がESDの分野で先進的な取り組みをしているということをよく耳にするようになりました。

私は現在神奈川県で小学校の教員をしているため奈教大の情報を同じ職場の先生と共有することなどは滅多にないのですが、(ただし5年程、同じ職場で奈教大出身の

人と働いたことがあります。今から20年程前。)数年前にJICAの国際理解教育の研修に参加した際に奈良で教員をしている人と話をする機会があり、「関西では、ESDといえば 奈良教育大。」という話を伺いました。ESDはこれまでも、そしてこれからもますます重要になる教育の理念の一つだと思います。奈教大のESDの取り組みがさらに発展して、より良い社会作りに貢献していくことを、切に願っています。そして、奈教大の取り組みに負けないように、自分もESDの実践を積み重ねていきたいと思っています。

奈良の思い出

森口 春好 (S30)

先日、奈良教育大学の「まほろば三十六号を送っていただき、懐かしく拝見、当時のことが思い出され、一筆書くことにしました。

その頃は、戦後まもなくの事で、高畑町には、大規模なアメリカ軍の駐屯地があり、米兵には、しばしば会いました。私は、少し遠慮がちに歩いていました。

でも、まもなく、国のまほろばとして、立派に立ち上がり、昔の姿を取り戻しました。これには、日本人の勤勉性と賢明さに依るものが大きいと考えます。立派〜。

近鉄奈良駅から、登大路を上がると、左手に県庁、大学、裁判所、主な建物が建ち並び、右手は、大きく、長く続く奈良公園に人馴れした鹿が観光客をめざして寄って来る。

大学の昼休み、芝生の上に寝転ぶと、まるで夢うつつの状態になる。

少し離れた所に、金魚の産地、郡山、市内から少し離れて、桜の名所、吉野がある等、…。

名所、旧跡が数えきれないほどある。

私は、そういう奈良が大好き…。

話は変わりますが…親から送金の乏しい、私は、鉄道の沿線にある国分駅(昔、河内の国と呼ばれていた所)に光洋ベアリングの会社があり、社長の別荘があることも、うすうす知っていた。広々とした敷地、叔父は、その番人として住んでいた。社長の送り迎えの運転手として。ここで、しばらく厄介になれる…。とほっとする間もなく、一ヶ月程少々で、「そろそろ腰をあげてもらわなければ…。」と低い声で叔父に言っているのを耳にした。この時、私は思った。金のない、困っている者に冷たいのか? しかも、薄い親戚にあたる…? 最初、うちに来ないかと言ったのは、むこうの方からだったのに…。今考えるのに…。最初は、一人息子に、しっかり勉強を教えてもらおうと思った…。次に、息子の遊び相手になってほしい…。しかも、できるだけ、つききり…。これには、どうしても承知できなかった。「よし、私は、がんばるぞ…。」

父の成績は、どんなだったか、急に見たくなった。鉄のトランク(戦場で弾が当たっても、少々のことでは、こわれない。)に保存されていた。開けて見て、びっくりした。通信簿を見た。…すごい。一年生から高等科まで、すべて甲…。点数で表した箇所は、ほとんど満点。私の成績などは、足もとにも寄れない。その父も貧しい家に

育ったが故に、旧制中学にもやらしてもらえなかった。のちに、関東軍の陸軍中將として、暮らし向きは、少しの間、良くなったが、敗戦と共に昔の貧乏生活に戻った。

今、考えることは、人間には、その人の運命がある。…それを、自分の力でいまずぐ、どうすることも出来ない、何かが働いていると思う。家が貧しいからと言って、弱音をはかずに、前向きに努力すれば、きっと、よい結果をもたらすことを、成功者の多くが示していると思う。「苦労あれば、楽あり。」は、まさに、生きた言葉として、使われている。

私が、小豆島から奈良に来た頃、家のくらしは、どん底にあった。

貧しいくらしが続く中で、学生生活を続けるには、寮生活を送ることがベストであると考え、そうしていたが…。遠く離れた所に移り、すぐ、寮にもどることになった。

貧富の程度こそあれ、やがて仲間意識も芽生え、楽しい集団生活が送れるようになる…。

人間や原野に住む動物達も、一人(一匹)で生きるとは、不可能である。苦しい学校生活の中にも、希望を失わず、やる気を持って大学生活が送れたのが何よりの収穫であったと思う。それには、なんと言っても、先生方のバックアップ、暖かい見守りが一番。常にこの貧乏学生にやさしく接し、かわいがってくれました。私は、この恩義ある先生方に感謝し、いつまでも忘れることが出来ません。

当時、困っていることを知って、授業以外で、何かとお世話いただいた教務課の瀬川敏夫先生(アルバイトや家庭教師の紹介等)。

授業で熱心にご指導いただいた国文学の吾郷寅之進教授、当時お若かった英文学の木本美代子助教授、人文地理学の林宏教授、体育の辻本教授、そのほか、大勢の先生方がおられた…。当時からは、永い年月が経過し、私の記憶も不確かなのところもあるかと思いますが…。先生方のご氏名の表記が異なる方がおられましたら、お許し下さい。

学校生活も終わりに近づく、冬の寒い朝、私は、民家の離れに居た。ふすま一つで、二つに仕切られたせまい部屋。一方では、ストーブで、ぬくぬくジュ〜ジュ〜。スキ焼、魚等。アメリカ軍の将校と若い日本人女性の同棲。時々笑い声も聞こえる。なんと…。それでも、時々、呼ばれて、ご馳走になる。

最後に、私の好きな英詩で締めるとしよう。

Winter is over, Spring has come.

別宴

山崎 晴久 (S39)

昨夏(7月22日)、我々、昭和39年卒(一部)は、コロナと猛暑の只中、AN-GRANDE HOTELで18名(男子5名・女子13名)の参加を得て第10回同窓会を思い切って開催した。しかし、同窓生の現状は厳しく、物故者13名、不明者3名、更に闘病、或いは介護中の方々を加えると、大半が老いに対峙、苦闘中である。

当日、82翁嫗とて会えば青春。活気溢れる会話が随処で交される。先ず、黙祈。挨拶の後、恒例の3分間スピーチ。各人の人生が滲み出た思わぬ近況が、次々と語る。心華やぐと共に、苦難を経て来た人の逞しい生命(いのち)の息吹きを感じる。次に、本会の今後の去就を話し合う。皆々、心中悶々としながらも、コロナ、老齢、幹事人選難等を勘案し、誠に残念ながら解散やむなし、と結論する。最後にハーモニカ伴奏で、童謡・唱歌・名曲等を、そして終曲に、「星影のワルツ」を歌い、解散。

「どんぐり会 (S40年卒)」の集い

幹事 岡田 加津子・玉瀬 耕治

私たちの学年(小学校課程)はほぼ3年に一度のペースで集まっていますが、コロナ禍になり、しばらく見送っておりました。その間に世話役の要であった中南修一君が亡くなりました。それで故人への追悼の意味を込めて令和6年5月12日(日)にリガーレ春日野で久々に集まりました。もう80歳を越えていますので、これで最終回としました。13名の故人への黙祷を捧げた後は、それぞれが思い出話をしました。学生時代のことや勤めてからの誰も知らない話などが持ち出され、そうだったのかと驚いたり感動したりしました。過去60年の歩みはみなそれぞれに感慨深いものがあります。

男子寮(桜寮)の話が出て、「松籟繁く…」と寮歌が歌われました。オカリナ演奏に合わせてみんなで「ふるさと」を歌いました。合唱団で本格的に歌をうたってい

心をつないだ麦の会

麦の会幹事 中川和子 (S41)

昭和37年入学、寮生活をしながら大学通い卒業した翌年から始まった同窓会、長い人生を共に支え合う一助としてきました。

最近のコロナ禍で延期を余儀なくされながらも今年で55回目を迎えることができました。

入寮した最初に寮母さんから渡されたどんぶり茶碗、20数名の新入寮生全ての名前と茶碗を覚えて下さっていることに感動し、入れられたご飯が麦飯だったことに驚いた記憶が、鮮明に甦ってきます。このことから同窓会につけた名前が「麦の会」、家庭を持ってからも子供共々、毎夏休みに参加、西は山口県・東は東京都と広範囲の出身地をめぐり、観光やその時々をの催しを楽しみながら、教育のこと家庭のこと等、一夜をともに語り明かしてきました。

年ふるに従って自身の体のこと等、話の内容も変化しつつお互いの存在に元気をもらい、高め合ってきた、かけがえのない仲間でした。傘寿の年を迎え、長距離の移

会員だより

やはり一抹の寂しさが残る。

しかし、この解散によって我々が永遠に相別れるものではなかった。仄聞によれば、小グループの会合が所々で計画・実施されているとか、恐らく、これによって友情は一段と深められるであろう。



る方のイタリア語での独唱も聞かせてもらいました。すばらしい歌声でした。

案内状を出した59人のうちのほとんどの方から返事が届き、近況報告がしたためてありました。老後を健康で楽しく過ごしている人、自身の病気や怪我、家族の介護や看病などで忙しくしている人など様々でした。みなさんありがとうございます。



動に困難を伴うことを考慮し、今回を最後の会とすることになりました。

会えば学生気分に戻れる気の置けない最高の仲間に乾杯!



学生会員からのたより

寧樂書院愛友会の活動紹介

寧樂書院愛友会代表 山本 隆萬
(伝統文化教育専攻文化遺産教育専修2回生)

奈良教育大学のルーツは『寧樂書院』という県立の教員伝習所に求められ、1874年〈明治7年〉6月4日、興福寺東室(現・興福寺本坊)を借用して開校しました。その後、一時奈良県自体が消滅して堺県に編入した際も1886年を除いて分校という形で残り、1888年〈明治21年〉に前年の奈良県再設置を受けて「奈良県尋常師範学校」として再び登大路町に開校されました。大学ではこの年を開校年としているものの、実は1874年以来、奈良県近代化のシンボルとして多くの県民の支援と嘆願によって存続してきました。



奈良教育大学淵源・『寧樂書院開創之地』の現在
(2024年4月・興福寺本坊)

そして本年は開校から丁度150年を迎える歴史的な節目にあたります。私たち「寧樂書院愛友会」は2023年5月に学生有志によって、寧樂書院の歴史を振り返る勉強会として組織しました。この1年間は特に開創期の教育・政治・建築・市民といった観点から考証を試み、冊子の作成や企画展の計画などの準備を進めてきました。その為文献を紐解く作業に多くの時間を要しましたが、読み耽る程、遙か過去の明治に生きた若々しく青春を謳歌された幾多の先輩方の姿が浮かび上がり、私たちも負けていけないという気概が生まれます。こうした関係が成り立つのも、揺るぎなく存在し続ける「母校」の下で同じ時間を過ごしているからだと思います。

最後に明治27年卒業の齊藤壽昌氏は母校を回想し、「母校は是れ『職員』と『生徒』と『卒業生』との間を流れ居る共通なる学校愛の精神即ち学校魂なるものありて、初めて其の生命の躍動が表れ相互の発展と進歩とが期せられ、此の三者は互に其の時処を異にし、又各其の本務を別つものと謂ひながら、県師範学校のあらん限り我々同窓の和親提携、内は外に依りて護られ、外は内に依りて連なる」「母校を中心とした卒業生大に躍動し国家社会のために貢献致しきものなり」と述懐しています。

この記念すべき節目に再び奈良教育大学の歩んできた150年の歴史を回顧し、奈良教育大学内外の『和親提携』が更に進む一端として、私たちの活動が皆様にとって僅かでも有為なものとなります事を願っております。

技術教育専修の活動紹介

技術教育専修 島田 一駿

技術教育専修では、材料と加工、生物育成、エネルギー変換、そして情報の幅広い分野にわたる講義と実技を通じて、知識と技能の両面を身につけ、中学校技術科の教員を目指し努力しています。少人数の専修であり、同回生だけでなく、先輩・後輩、大学教員との距離が近く、協力しながら主体的に学ぶ環境が整っています。

授業外では、昨年の夏には学生が竹で作った流しそうめんを通じて、学生同士や大学教員との交流を深めました。また、春には『奈良市地域に飛び出す学生支援事業補助金』の援助をいただき、奈良市の小中学生に向けて廃材を利用したワークショップを開催しました。

この会報を通じて、技術科の活動が多くの方に伝わることを大変嬉しく思います。



◀流しそうめん交流

▼廃材を利用したワークショップ



学生自治会

学生自治会執行委員会 執行委員長
佐藤 美咲

こんにちは。学生自治会執行委員会です。私たち学生自治会執行委員会(以下、本会)は現在3回生5名、2回生2名、1回生2名の計9名で活動をしています。学生自治会は奈良教育大学学部生全員をもって構成されています。本会はその代表であり、文化系部活・サークルが所属する文化会、体育会系部活動・サークルが所属する体育会を統括しています。また、支援課からの要請に応じて式典の挨拶や懇談会に参加しています。

今回は2つの行事についてご紹介いたします。まず、年度始めに実施する「サークルオリエンテーション」です。これは文化会と体育会の協力のもと、新入生が部活動・サークル(以下、各団体)に参加するかを検討する機会として実施します。従来の形式は新入生が興味のある団体の代表者と話をするのみの形式でしたが、今年度は初めて体験型の形式に挑戦しました。今後も新入生に各団体の魅力がより伝わるよう、試行錯誤して参ります。

もう一つは、「学生大会」です。学生大会は学名生全体の過半数の出席をもって開催され、本会役員の承認及び罷免、会計予算及び決算の報告、大学祭実行委員会に

よる大学祭運営に関する報告などが行われています。

その他各団体には、同窓会の皆様からいただきました活動支援金や入学時にお支払いいただく自治会費の一部を各団体の活動の手助けになりますよう、分配しております。本会は陰で学部生を支援する業務の方が多く、学部生ですら本会の活動を知らない場合が多くあると思います。しかし本会は学部生の大学生活がより意義のあるものへとするために、今後も陰ながら支援していく所存でございます。



大学祭実行委員会

委員長 豊田 凜磨

初めまして、私たちは大学祭実行委員会です。

私たちは毎年11月に行われる大学祭「輝菫祭」の企画・運営をしている団体です。

100人を超えるスタッフが一丸となり、より良い輝菫祭を作るために日々活動しています。

輝菫祭では、附属の幼稚園や小学校の子どもたちに向けた子どもフェスティバルというイベントや、学生たちも楽しめるお化け屋敷やのど自慢大会など様々なイベントを行っています。

昨年度のテーマはコロナの規制も緩和され、楽しめる輝菫祭になって欲しいという願いを込めて「輝菫祭 楽しむ鹿なくない!」になり、模擬店の数を増やしたことでコロナが流行する以前の輝菫祭を取り戻してきました。それによって、子どもたちだけでなくたくさんの学生も楽しめる輝菫祭になりました。

今年度のテーマは輝菫祭において奈教生もそれぞれが主役となって輝き、飛躍(Leap High)し、本来の輝菫祭を取り戻し本気(ガチ)で楽しむために「奈教魂 We can Leap High !!」に決定しました。例年通りの子どもフェスフェスティバルやお化け屋敷以外にも今まで以上にバージョンアップした輝菫祭を開催致します。例えば、海外をモチーフに学内をたくさんの装飾で華やかに飾り付けし多くの写真スポットを用意することや、スペシャルゲストもお呼びして輝菫祭を盛り上げていただく予定です。

今年度の輝菫祭の日時は11月16日(土)、17日(日)となっています。素晴らしい輝菫祭を開催するため委員一同尽力して参ります。

沢山の方にご来場いただければ幸いです。



学生会員からのたより

学生クラブ・サークルだより

準硬式野球部

現在選手12名、マネージャー4名の計16名で活動しています。水・金・土の週3回で奈良教育大学グラウンドにて練習しています。



奈教の準硬式野球部は高校まで野球をしていた人、中学まで軟式野球をしていて高校野球はしていない人、大学から野球を始めた人など様々な部員がいます。みんながリーグ戦の勝利という目標に向けて、部員同士で教え合いながら練習に励んでいます。

大学で野球をしたいけど硬式野球部です自信がない、遊びやバイト、勉強、他の趣味などもしっかり両立させたいという人は誰でも是非一度準硬に来てみてください！

陸上競技部

私たち陸上競技部は、選手15名、マネージャー4名の計19名で活動しています。活動曜日は、月・火・木・土の週4日です。



奈教陸上競技部の強みは、部員それぞれが自分で考えて練習メニューを組んでいるため、個々の目標やスケジュールに合わせて競技に取り組めるところにあります。本格的に競技に取り組みたい人から健康のためにジョギングしたい人、選手を支えていきたい人まで様々です。

また、陸上競技部は小学生の子供たちに陸上競技の指導も行っております。競技者としてだけでなく、指導者としても成長できる環境があるのも強みです。

これからもそれぞれの目標に向かって陸上競技に取り組んでいきます！

男子ハンドボール部

現在、プレイヤー8名で元気に活動しています。活動曜日は水曜、土曜で部活と学業を両立して頑張る部員ばかりです。初心者の方でも歓迎し、基本的なことから丁寧に教えています。

リーグ戦も行っており、試合に向けて頑張っている練習しています。



女子バスケットボール部

現在、プレイヤー2年生2人、3年生2人の4人で活動しています。9月の秋リーグに向けて、火・木・土・(日)曜日の週3～4日間奈良教育大学の体育館で活動しています。



関西女子学生バスケットボール連盟(KWIBA)に加盟しており、令和5年度の秋リーグ戦では3部残留することができました。まずは、試合に出られるよう部員集めですが、日々切磋琢磨し練習に励んで参ります。

男子バレーボール部

現在、1年生2人、2年生3人、3年生2人、マネージャー4人で活動しています。練習日は月・水・土の週3回で、プライベートも充実させながら楽しく練習することができています。昨季の入れ替え戦では無事勝つことができ、何とか残留することが出来ました！4月から始まる春リーグでは昇格できるように日々練習やトレーニングで肉体強化に励んでいます。今は部員が少なく、人数がなかなか集まらない日もありますが、少数だからこそ濃い内容の練習を行うことができています。春からの新入生も含めて、元気に頑張っています!!



会員の皆さまの 原稿を募集して おります

支会・同窓会の報告、在学時代の思い出、近況や最近思うこと、趣味や研究等お気軽にお寄せ下さい。内容によっては誌面の都合上、次号になる場合がありますのでご了承下さい。

500字程度(写真を添付して下さい)
で郵送、メールでお寄せ下さい。

送付先：

〒630-8301 奈良市高畑町
奈良教育大学内
一般社団法人奈良教育大学同窓会
竹柏会事務局「まほろば原稿」

E-mail：件名「まほろば原稿」
nakyodoso130@gmail.com



事務局だより

- ◎「奈良教育大学同窓会ホームページ」へは、パソコンで検索頂くか、下記のQRコードを読み取ることで開くことができます。是非ご覧ください。
- ◎今年度も未来を育む基金（奈良教育大学基金）のパンフレットを同封しました。主旨をご理解の上、ご協力をお願いいたします。
- ◎まほろば37号は、全会員に発送しています。**住所変更等がありましたら事務局までご連絡ください。(メール・ファックスもご利用ください)**
- ◎事務局は**毎週水曜日(10:00～13:00)在室しています。(お盆・年末年始を除く)**
なお、**7月17日(水)から8月9日(金)の期間は、月・水・金曜日(10:00～15:00)在室します。**
- ◎同窓会は皆様の会費で活動しています。会費の納入にご協力ください。
- ◎個人情報の保護には、万全を期しています。



奈良教育大学
同窓会
ホームページ

編集 後記

ここ数年、学内の桜(ソメイヨシノ)は卒業式前後に満開になっていましたが、今年は開花が遅れたので、新しい学生会員を満開の桜と共に迎えることができました。また同窓会が寄贈した枝垂桜も、ソメイヨシノに続いて可憐に開花してくれました。

今年の会報を発行するにあたり、本学を卒業した会員からだけでなく、学生会員からも寄稿があるなど、掲載内容が多くなりましたので、昨年と同じページ数でお届けします。今後も学生会員から多くの原稿が寄せられることを期待しています。

一般社団法人 奈良教育大学同窓会竹柏会会報「まほろば」 第37号 発行：令和6年7月1日

発行所 一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会事務局 〒630-8301 奈良市高畑町 奈良教育大学内
TEL:0742-21-6101 FAX:0742-21-6102 郵便振替番号00930-1-238232
Eメール：nakyodoso130@gmail.com

編集・発行 一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会

印刷所 関西印刷株式会社 〒630-8281 奈良市南半田中町19・20番地

—題字 故 川淵勝男元会長—